

テスト設計コンテスト'17 U-30 クラス

アピールシート

※ 全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。

チーム ID	S171021001	チーム名	チーム T 研
--------	------------	------	---------

チーム紹介

私たちは香川大学工学部の高木研究室に所属する学生チームです。

当研究室では、ソフトウェアテストに関する研究を行っています。研究内容としては、モデルを用いたテストケース生成の自動化や、VDM(Vienna Development Method)を用いたテストケース評価手法の提案などを行っています。個々人の研究はテスト全体ではなくテスト工程の一部に焦点を当てたものとなっているため、テスト全体の工程を視野に入れることはあまりありませんでした。そこで今回はテスト設計を一通り行い、実際にテストケースが生成されるまでの流れを勉強させていただくと機会として参加しました。

コンセプト

私たちは「どんな状況でも安全に使用でき、より多くの要望に応えるテスト」をコンセプトとしてテストの設計を行いました。要求補足書から「小さな子供がいる環境で使用することを想定している」、「上流工程への改善のフィードバックを提供する」とあるため、自分たちで安全や利便性に関して独自のテスト観点を追加することでより安全かつ高機能な製品を目指し、さらに他のチームへの改善を示唆するテストとなることができると考えました。

工夫点

1. 独自の非要求項目の検討

独自で要求仕様書に足りないと感じる部分を追加のテスト項目として取り入れることで、より安全かつ高機能な製品を目指すテストの設計を行います。

2. フィードバック項目の検討

ユーザーの視点に立って製品に求められる項目をピックアップします。製品に新たに期待されるだろう項目をまとめて上流工程へのフィードバックとすることで、これからの開発での改善点をあらかじめ示唆することができます。

3. 状態遷移図の拡張

要求仕様書に付随している状態遷移図に新しい遷移の追加、テスト項目の関連付けを行うことで、システムの流れと関連するテスト項目を一目で判断することができます。これにより、テストシナリオ作成などの作業が容易になり、テスト実装チームへの引継ぎをスムーズに行えるようにします。